

静岡県で働く女性医師の皆さんを応援します



令和4年度 事業報告書



目次

1 ご挨拶 1

山内 克哉 浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション科 病院教授
谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター 特任講師

2 事業について 3

・活動概要 ・取り組み ・構成メンバー

3 実績報告 5

- ・成果
 - ①就業・復職・キャリア形成支援について
 - ②相談事業について
 - ③大学診療科、県内医療機関等への訪問等について
 - ④浜松医科大学との連携
 - ⑤県内医療機関との連携
 - ⑥令和4年度静岡県医師数アンケート報告
- ・実施状況
 - ①啓発活動
 - ②相談窓口の設置
 - ③センターの活用
 - ④マタニティ白衣・マタニティパンツの無料貸出し

4 広報活動・情報発信 28

- ①ホームページについて
- ②パンフレットの配布
- ③講演会・シンポジウム等の参加

5 アクセス・発行について 33

ご挨拶



センター長挨拶

山内 克哉

浜松医科大学医学部附属病院

リハビリテーション科 病院教授

静岡県の医師不足は深刻であり、女性医師支援は、医師不足の解消という目的もあります。浜松医科大学では、平成21年～25年にかけて「静岡周産期医師長期支援プログラム」を文部科学省の事業として行い、平成25年から27年まで女性医師支援相談窓口設置事業が静岡県の浜松医科大学への補助事業として行われた後に、浜松医大女性医師支援センターが、静岡県のふじのくに女性医師支援センターとしても機能しています。出産後等の女性医師の復帰は、静岡県の医療にとっても実現すべき重要な目標です。

女性医師にとっての共通の悩みとして、結婚や出産・育児と仕事の両立です。子育てを行っている期間、女性医師は長期休職となることが多く、復帰してもパートタイマーとして働くことが多いのが現状です。特に時間外勤務や夜勤が多い診療科では、出産、育児により現場を去る女性医師が増加しています。県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取り組みを積極的に実施することで、女性医師が更に活躍する仕組みを構築しています。出産後早期の職場復帰をサポートし、非常勤医師の常勤化を促していきたいと考えています。

女性医師の職場復帰にとって、情報の集積と発信は大きなツールとなるため、県内のどのような病院がどのような条件で女性医師の復帰を行っているか、また勤務形態や給与などの情報を集積するために、センターでは谷口医師を中心に県内病院を訪問し、大きな成果を挙げています。コロナ禍で本年度も病院訪問が限定されていましたが、コロナの収束とともに県内病院への訪問も再開しています。病院訪問時には積極的な情報交換を行いたいと思いますのでご協力の程よろしくお願いいたします。

ふじのくに女性医師支援センターへの相談件数は年々増加し、県外からの就業相談も増えてきました。相談内容は、病院の勤務形態や専門医の取得、知識・手技の取得や研究の継続といった仕事面の事や、育児面（子供の預け先、病児保育、マタニティ白衣、母乳育児の継続、子供の教育相談など）と多岐に渡る相談があります。同じ問題や悩みを抱える女性医師が頼る場となることがふじのくに女性医師支援センターの目指すところです。対象女性医師が気軽にしかも実質的に利用できるようなセンターを理想と想い描いています。皆様からの要望もお待ちしていますので、是非お気軽にご利用下さい。

専任医師挨拶



谷口 千津子

浜松医科大学医学部附属病院

女性医師支援センター 特任講師

医師の女性が占める割合は年々増加し、若い世代での女性医師割合は30%を超えるようになりました。結婚や出産・育児といったライフイベントが重なる時期にキャリアを積んでいる若い医師たちが大学病院をはじめ静岡県内の医療機関に多く在籍しており、その中で家庭生活とキャリア形成の両立について悩まれる方は少なくありません。そのような背景の中、県の委託を受け2019年に開設された「ふじのくに女性医師支援センター」は県内の医療機関や浜松医科大学の各診療講座の先生方にご協力をいただいて6年目となりました。一人でも多くの医師の皆さんが家庭人としての生活を享受しつつ、医師としてのキャリアを継続し地域で活躍できるようにサポートしていきたいと思っております。

近年では他県在住の医師が、様々な理由で静岡県に転入され、研修継続や自身の専門を生かした就業を希望する相談の機会も増えてきました。このような方を支援するため、県内医療機関と連携し、より細やかな就業に関する情報提供を行う事で静岡県の医師不足を解消する一端を担えればと考えています。

また、令和4年度は「いかに多くの人にセンターの活動を認知して活用してもらえるか」をテーマに、ホームページをリニューアルし、ロールモデル紹介や医療機関紹介を新たなコンテンツとして加える試みも開始しました。静岡県が一時の研修地で終わるのではなく、県内在住者から見た、それぞれの地域での魅力をお伝えしながら、家族と共に静岡県での研修・就業を継続出来るよう発信していきたいと思っております。

これからは、育児や家庭生活のすべてが女性に任されるのではなく、男女ともに働き方を見直して、各々が家庭と仕事の両立が出来る環境作りをしていくことが求められています。

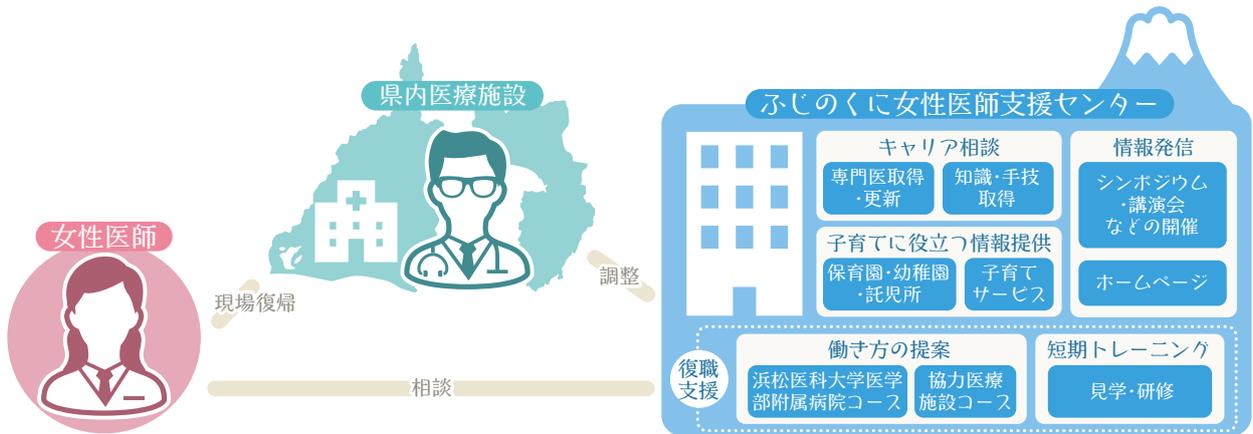
県内で頑張っていच्छるの先生方の活躍を、これから新たにキャリアを積んでいこうとする先生方のロールモデルとして繋げていけるようなネットワークの中継組織でもありたいと考えています。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

事業について

活動概要

県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、これまでの普及啓発、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取組を積極的に実施することにより、女性医師が県内で更に活躍する仕組みを構築します。



取り組み

キャリアサポート

①キャリアコンサルタント

出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へキャリア支援のためのコンサルティングを行っています。

②復職支援

それぞれの状況に合わせた、働き方の提案を行っています。浜松医科大学をはじめ、県内の医療施設と連携し、スムーズに復職ができるようサポートします。

浜松医科大学女性医師支援枠（参照 11P）

復職支援協力医療施設（参照 13P）

③啓発活動（参照 22～25P）

静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会やシンポジウムを開催しています。

これから医師を目指す人、現在働いている先生、病院の管理者の先生方が情報共有できるようイベントを通して情報発信をしています。

両立サポート

①情報提供（子どもの預け先、育児サービス等）

②マタニティ白衣とマタニティパンツの無料レンタル

構成メンバー

ふじのくに女性医師支援センター

区 分	内 容
開 設 日	平成 29 年 4 月 3 日 (月)
開設場所	浜松医科大学医学部附属病院 (病院棟 5 階 503 号室)
組織体制	センター長 山内 克哉 (浜松医科大学医学部附属病院リハビリテーション科病院教授) コーディネーター (専任医師) 谷口 千津子 (浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任講師) コーディネーター (専従事務員) 袴田 菜穂子 (浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター)
時 間	午前 9 時から午後 5 時まで

女性医師支援連絡協議会

区 分	内 容
目 的	センターの運営が、設置の趣旨に沿って効果的に行われるようにするため、女性医師支援連絡協議会を設置
協議委員	会長 奈良 雅文 静岡県健康福祉部医療健康局技監 委員 中川 陽子 静岡県立静岡がんセンター検診センター医長 委員 鳥居 紘子 静岡県立総合病院移行医療部耳鼻咽喉科医長 委員 宮下 正 静岡県医師会理事 委員 山内 克哉 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター長 委員 谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター特任講師

実績報告

1) 成果 (5.3.10 現在)

①支援業務：就業・復職支援、キャリア形成支援

県内医療施設での就業や出産・育児を経て医療現場への復帰を希望する医師への支援を行ないます。

(ア) 就業支援

県内外在住の医師が静岡県内での就職先を求めた際に、県内医療機関への就業に伴う支援を行ないます。

区分	人数
就業相談	34名
就業支援者（上記相談の内）	12名（今年度8名、来年度4名）

(イ) 復職支援

県内医療機関に就業中の女性医師が産休・育休後復帰、あるいは休職中の女性医師が医療現場に復帰をする際の支援を行ないます。

また、就業支援対象者に対し、浜松医科大学各診療科講座と連携し、講座非常勤医師、あるいは「浜松医科大学女性医師支援枠」において復職する際に個別の復職プログラムを作成・運用します。

区分	人数
復職相談	12名
復職支援者（上記相談の内）	11名（今年度6名、来年度5名）

大学復職支援者一覧（平成29年～）

診療科	人数
内科	2名
産婦人科	8名
皮膚科	2名
精神科	2名
形成外科	1名
小児外科	1名
合計	16名

(ウ) キャリア形成支援

県内在住の女性医師のキャリア形成に関して、支援を行ないます。

大学各診療講座と連携し対応し、相談者である女性医師の希望に合わせて専門医資格・更新に関する情報提供や研修医療施設の情報提供及び紹介を行ないます。

区分	人数
キャリア形成相談	17名

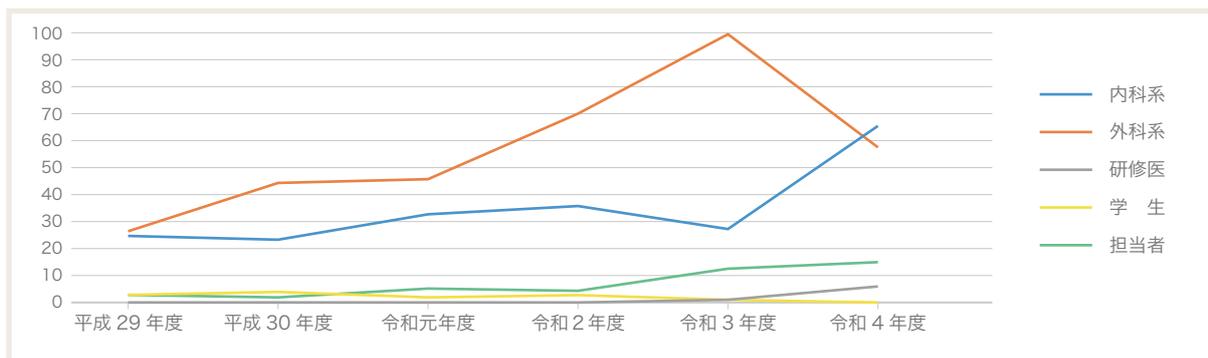
②相談事業について（項目件数）

区分	実績件数
就業相談	203件
キャリア形成相談	100件
その他相談	107件

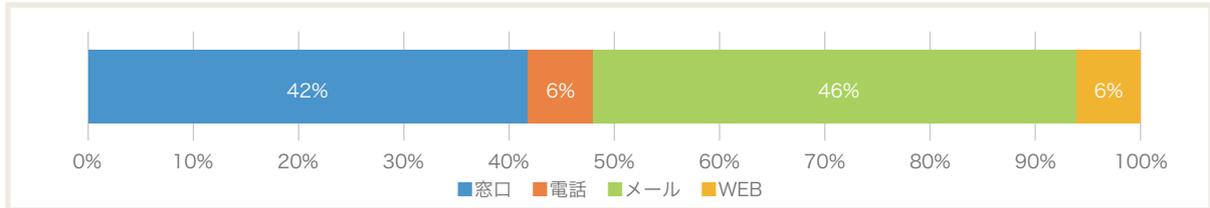
相談者数内訳：相談者数 45名（医師 39名、担当者等 6名）、相談回数 161回

区分	診療科	医師				学生	担当者等
		卒後5年未満	卒後5年～10年未満	卒後10年～15年未満	卒後15年以上		
医師	内科		2	1	2		
	精神科		1		2		
	小児科		2	2	1		
	外科		1	2	1		
	整形外科						
	皮膚科	1	1	2			
	眼科				1		
	産婦人科			4	3		
	放射線科						
	麻酔科蘇生科						
	形成外科		1		2		
	小児外科						
	リハビリテーション科		1	3			
	病理診断科						
	救急科						
	研修医	3					
	学生						
担当者等						6	
合計 45名		4	9	14	12	0	6

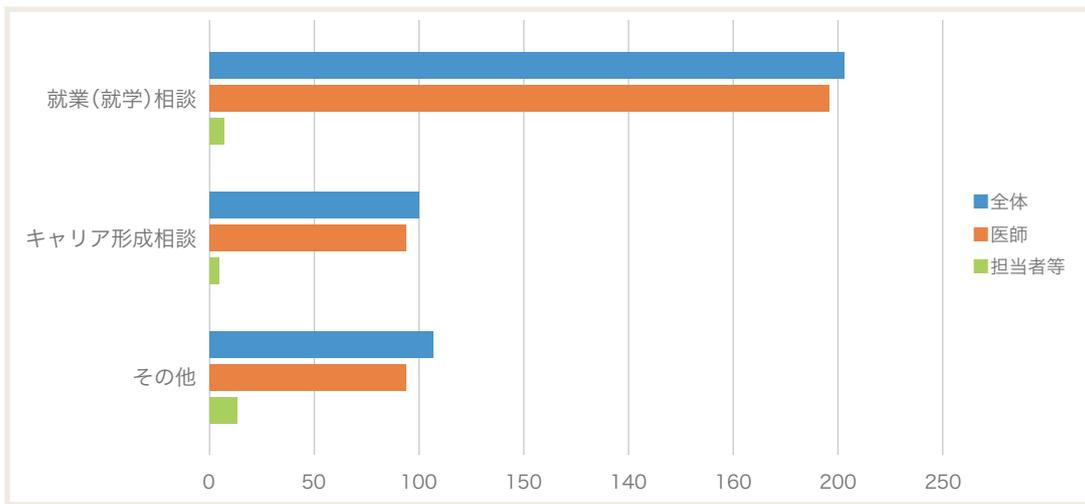
相談件数の推移



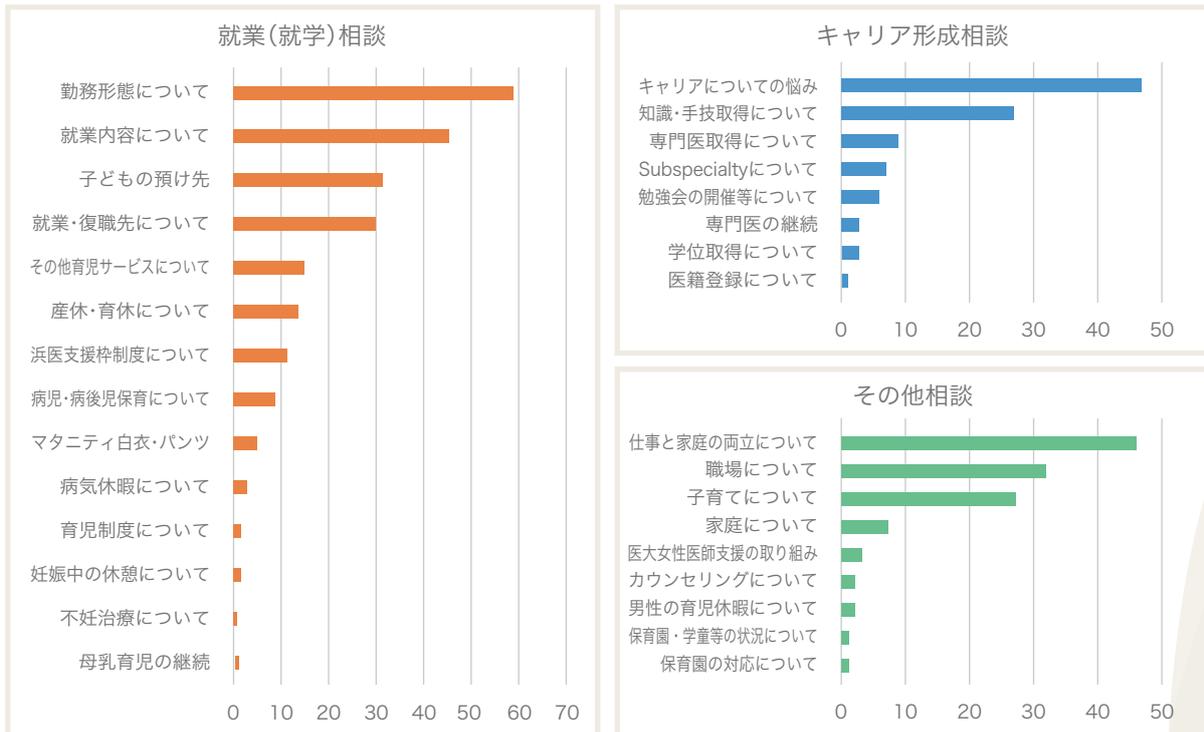
相談方法



相談項目別（※1回の相談において複数の項目が該当する場合あり）



相談内容内訳（※1回の相談において複数の項目が該当する場合あり）



令和4年度の支援実績は就業・復職・キャリア形成に関わる相談人数は昨年より減少しましたが、昨年同様5年目から15年目の先生の相談が多く、相談回数は昨年より増加しました。これは相談者の先生から多方面にわたって相談を受けていた結果ではないかと思えます。

相談内容についても、例年通り復職に関する子育て支援情報・両立のための勤務形態や就業内容に関する相談が多くを占める一方で、自身のキャリアや医師としての知識、技術の習得に関しての相談が増加しました。子育てをしながらキャリアを積んでいきたいという思いの先生からのご相談が多い1年でした。

③大学診療科、県内医療機関等への訪問等について

区分	浜松医科大学	医療機関
訪問数	15 診療科	11 施設

【浜松医科大学訪問診療科一覧】

腎臓内科	循環器内科	放射線科
乳腺外科	眼科	精神科
皮膚科	麻酔科	小児科
耳鼻咽喉科	産婦人科	リハビリテーション科
形成外科	病理部	家庭医療学講座

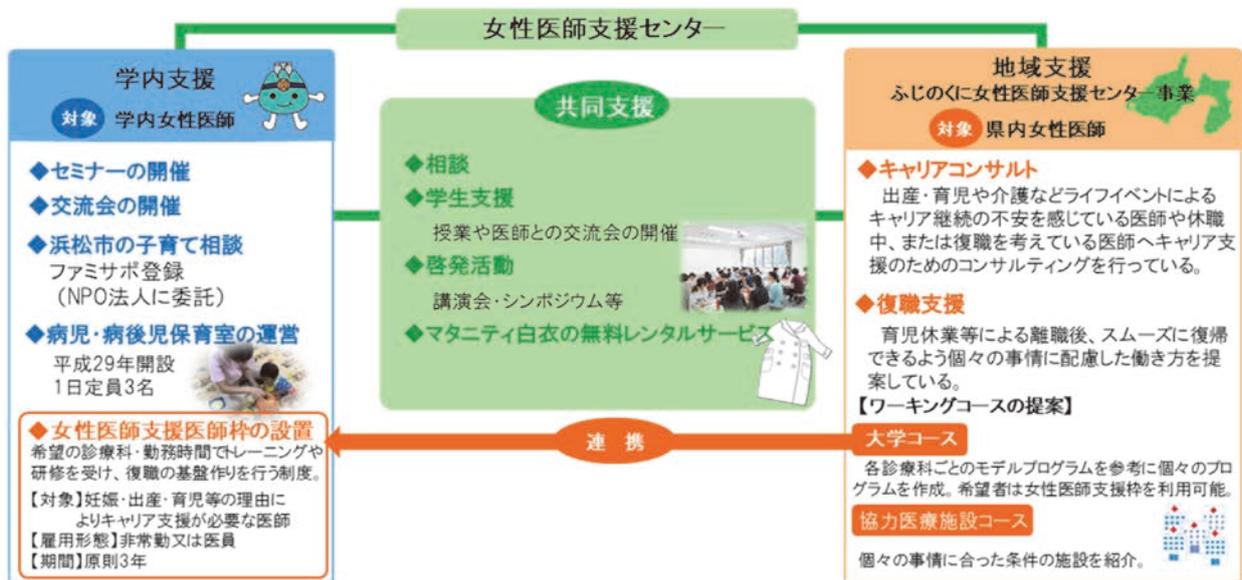
【県内訪問医療機関一覧】

静岡医療センター	三島総合病院
沼津市立病院	富士市立中央病院
静岡県立総合病院	静岡てんかん・神経医療センター
静岡市立清水病院	静岡済生会総合病院
甲賀病院	藤枝市立総合病院
天竜病院	

④浜松医科大学との連携

1) 大学との連携、組織図

ふじのくに女性医師支援センターは静岡県のご委託事業として浜松医科大学が中心となり取り組んでいます。学内支援では大学女性医師支援センターが主体となり、学内女性医師を対象に病児・病後児保育室の運営やイベントを行っています。地域支援ではふじのくに女性医師支援センターが主体となり、県内全域の女性医師を対象に各医療施設と連携して就業・キャリアに関する幅広い支援を行っています。



2) 診療科訪問・復職トレーニングモデルプログラムの作成依頼

15 診療科を訪問し、事業の報告と各講座の状況を確認しました。

現在、49 プログラムが浜松医科大学女性医師支援センターホームページより閲覧可能です。

※復職トレーニングプログラムとは出産や育児で一時的に臨床の第一線から離れざるを得なかった女性医師に対して、キャリア継続支援を目的として作られた就業計画書です。

浜松医科大学女性医師支援センターホームページ

<http://www2.hama-med.ac.jp/w1b/woman/index.html>

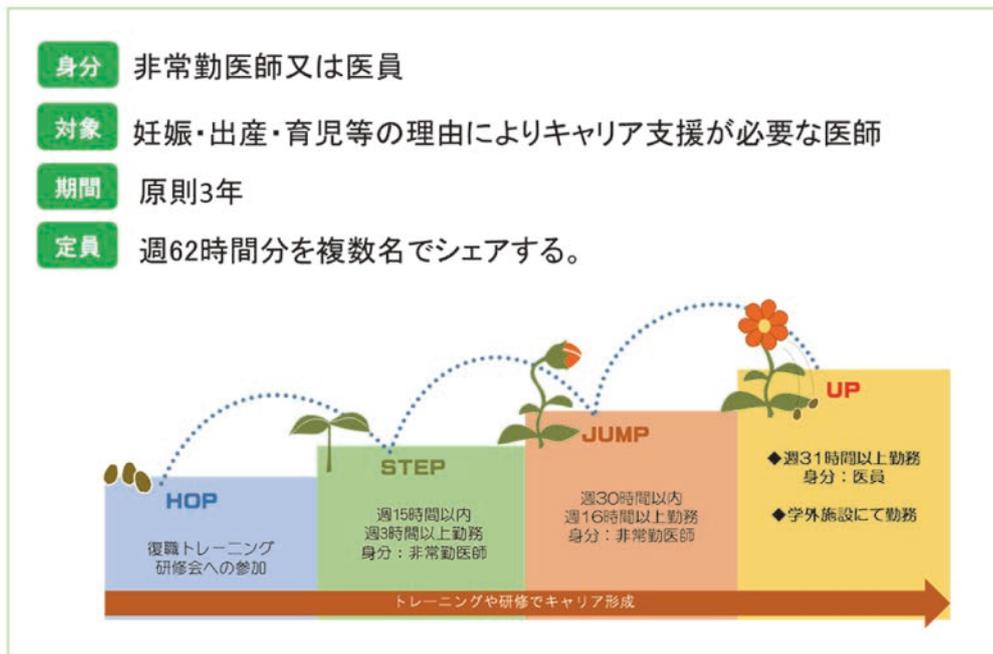


浜松医科大学連携講座・診療科一覧

診療科	プログラム数	診療科	プログラム数	診療科	プログラム数
第一内科	3	整形外科	2	リハビリテーション科	1
第二内科	6	皮膚科	1	形成外科	1
第三内科	6	泌尿器科	1	病理診断科	—
精神科	3	眼科	1	救急科	1
小児科	6	耳鼻咽喉科	1	小児外科	—
第一外科	5	産婦人科	3	口腔外科	—
第二外科	—	放射線科	4	地域家庭医療学	2
脳神経外科	1	麻酔科	1	プログラム合計	49

3) 浜松医科大学女性医師支援枠の活用

常勤として勤務が困難な女性医師の離職を避けるために、浜松医科大学女性医師支援センターにて採用枠を設け、医員または非常勤医師として雇用します。支援枠を利用している期間は希望の診療科でトレーニングや研修を行い、非常勤の医師は常勤医として大学または県内医療機関で復職できるよう基盤作りを行います。この制度を活用しながら大学で復職希望の医師をサポートしています。



申込みの流れ



1. 利用希望者はエントリーシートに記入をし、勤務開始希望月の3ヶ月前までにセンターに申請をしてください。
2. エントリーシートに沿って現状や希望する勤務内容の確認を行います。
3. センター長と診療科担当医が申請の受理について検討します。
4. 採用となった場合は就業に関する具体的な内容について最終確認を行います。
5. 希望月より就業を開始します。

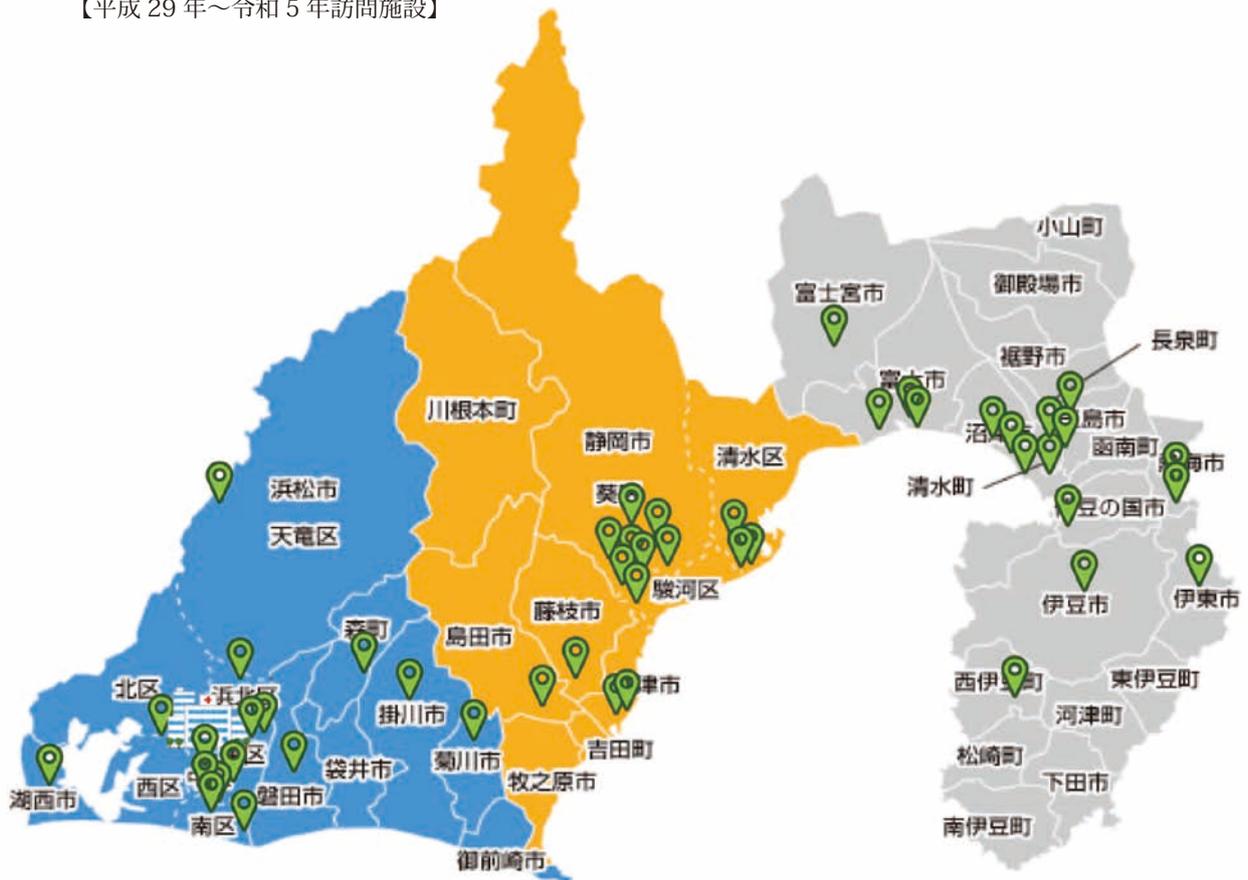
⑤ 県内医療機関との連携

1) 訪問・協力依頼

県内の公的医療機関等は9施設を訪問し、その他医療施設を2施設訪問しました、各病院長・担当医師・担当事務と面談し、下記について依頼しました。

- ① 事業への協力（復職支援協力医療施設としてホームページに登録）
- ② 院内の女性医師数等の情報提供
- ③ 院内での周知活動（チラシ・パンフレットの配布）
- ④ 担当者がいない施設については配置依頼

【平成29年～令和5年訪問施設】



2) 復職支援協力医療施設

復職支援協力医療施設とは下記の全ての条件を満たす施設です。

- ◆ 仕事と家庭を両立するための支援制度がある。
- ◆ 専門医取得や更新を目指した就業支援が可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターのホームページに復職支援協力医療施設として情報を登録していること。また、センターのバナーを施設のホームページに貼ることが可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターの活動に協力が可能な施設であること。

ホームページでは結婚・育児等で休職中の女性医師や家族の転勤に伴い県外から転居してきた女性医師が離職することなく、スムーズに勤務継続ができるよう復職支援協力施設の検索や閲覧できます。

【ホームページ登録施設一覧】

■ 公的医療機関等

施設名
下田メディカルセンター
伊東市民病院
国立病院機構静岡医療センター
裾野赤十字病院
伊豆赤十字病院
三島総合病院
NTT 東日本伊豆病院
富士宮市立病院
富士市立中央病院
静岡県立こころの医療センター
静岡県立こども病院
静岡市立清水病院
静岡赤十字病院
静岡済生会総合病院
静岡厚生病院
清水厚生病院
島田市立総合医療センター
藤枝市立総合病院
磐田市立総合病院
中東遠総合医療センター
国立病院機構天竜病院
浜松医療センター
浜松赤十字病院
遠州病院
聖隷浜松病院
聖隷三方原病院

■ その他医療施設

施設名
聖隷沼津病院
三島共立病院
三島森田病院
池田病院
富士整形外科病院
日本平病院
岡本石井病院
静岡徳洲会病院
国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター
甲賀病院
駿河西病院
静岡県結核予防会
掛川北病院
掛川東病院・介護老人保健施設 桔梗の丘
十全記念病院
浜北さくら台病院
すずかけセントラル病院
平安の森記念病院
浜名病院
浜松南病院

■ 診療所

施設名
木村産科・婦人科
坂の上ファミリークリニック
浜松佐藤町診療所
やまなしクリニック
クリニックさくら
森本耳鼻咽喉科

【復職支援協力医療施設一覧】(R5.2.6 現在)

◆東部 24 施設

区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録	区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
公	下田メディカルセンター	○	○	○	公	NTT 東日本伊豆病院	-	○	○
公	西伊豆健育会病院	-	○	-	公	順天堂大学医学部附属静岡病院	○	○	-
公	伊東市民病院	○	○	○	公	富士宮市立病院	○	○	○
公	国際医療福祉大学熱海病院	○	○	-	公	共立蒲原病院	○	○	-
公	静岡医療センター	○	○	○	公	富士市立中央病院	○	○	○
公	静岡県立静岡がんセンター	○	○	-	公	鷹岡病院	-	○	-
公	沼津市立病院	○	○	-	病	熱海所記念病院	○	○	-
公	裾野赤十字病院	○	○	○	病	聖隷沼津病院	○	○	○
公	伊豆赤十字病院	○	○	○	病	三島共立病院	-	○	○
公	伊豆医療福祉センター	-	○	-	病	池田病院	-	○	○
公	三島総合病院	-	○	○	病	富士整形外科病院	○	○	-
公	沼津中央病院	○	○	-	病	三島森田病院	○	○	○

◆中部 17 施設

区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録	区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
公	静岡県立こころの医療センター	○	○	○	公	島田市立総合医療センター	-	○	○
公	静岡県立こども病院	○	○	○	公	焼津市立総合病院	-	○	-
公	静岡県立総合病院	○	○	-	公	藤枝市立総合病院	○	○	○
公	静岡市立静岡病院	○	○	-	病	日本平病院	-	○	○
公	静岡市立清水病院	○	○	○	病	岡本石井病院	-	○	○
公	静岡赤十字病院	○	○	○	病	静岡徳洲会病院	-	○	○
公	静岡済生会総合病院	○	○	○	病	国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター	○	-	○
公	静岡厚生病院	○	○	○	病	甲賀病院	○	○	○
公	清水厚生病院	○	○	○	病	駿河西病院	-	○	○
公	清水駿府病院	○	○	-	病	静岡県結核予防会	-	○	○

◆西部 29 施設

区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録	区分	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
公	磐田市立総合病院	○	○	○	病	掛川北病院	—	○	○
公	中東遠総合医療センター	○	○	○	病	掛川東病院・介護老人保健施設 桔梗の丘	—	○	○
公	聖隷袋井市民病院	—	○	—	病	浜名病院	—	○	○
公	市立御前崎総合病院	—	○	—	病	浜松南病院	—	○	○
公	菊川市立総合病院	○	○	—	病	十全記念病院	—	○	○
公	公立森町病院	—	○	—	病	浜北さくら台病院	—	○	○
公	浜松労災病院	○	○	—	病	すずかけセントラル病院	—	○	○
公	国立病院機構天竜病院	○	—	○	病	平安の森記念病院	—	○	○
公	浜松医療センター	○	○	○	診	木村産科・婦人科	○	—	○
公	国民健康保険佐久間病院	○	○	—	診	坂の上ファミリークリニック	—	○	○
公	市立湖西病院	—	○	—	診	浜松佐藤町診療所	○	○	○
公	浜松赤十字病院	○	○	○	診	やまなしクリニック	○	—	○
公	遠州病院	○	○	○	診	クリニックさくら	○	—	○
公	聖隷浜松病院	○	○	○	診	森本耳鼻咽喉科	○	—	○
公	聖隷三方原病院	○	○	○					

区分 公：公的医療機関等 病：その他の医療施設 診：診療所

登録がお済でない医療施設はふじのくに支援センターホームページ TOP → 復職支援情報 → 復職支援協力医療施設登録より簡単に登録が可能です。是非ご協力をお願いします。

URL: <https://www.fujinokuni-w.jp/>

⑥令和4年度静岡県医師数アンケート

- ◆目的 県内の医療機関に所属する女性医師の就業実態を調査することにより、県内女性医師支援活動の現状把握と今後の活動の方向性を検討する
- ◆調査期間 令和4年10月～12月
- ◆対象 静岡県内医療機関（病院）
- ◆回答施設数 78施設（回答率45.6%）

Q1 2021年4月1日時点での医師在籍数

区分	全体	男性医師	女性医師
常勤医師	3564	2886	678
非常勤医師	1539	1277	262

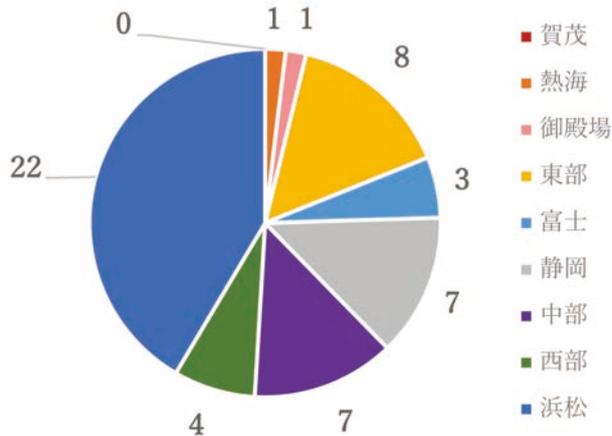
Q2 2021年4月～2022年3月までの期間に県外から就業した女性医師数

全体	東部	中部	西部
119	73	23	23

順天堂大学医学部附属静岡病院	37	公益社団法人地域医療振興協会伊豆今井浜病院	1
静岡県立静岡がんセンター	9	伊東市民病院	1
社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院	9	伊豆赤十字病院	1
社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院	9	公益財団法人復康会沼津中央病院	1
沼津市立病院	5	医療法人社団志仁会三島中央病院	1
静岡県立総合病院	5	国立駿河療養所	1
独立行政法人国立病院機構静岡医療センター	4	一般財団法人富士脳障害研究所附属病院	1
独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター	4	静岡県立こころの医療センター	1
静岡赤十字病院	4	静岡済生会総合病院	1
焼津市立総合病院	4	J A 静岡厚生連静岡厚生病院	1
医療法人社団秀峰会川村病院	3	島田市総合医療センター	1
浜松医科大学医学部附属病院	3	藤枝市立総合病院	1
国際医療福祉大学熱海病院	2	医療法人社団平成会藤枝平成記念病院	1
裾野赤十字病院	2	浜松医療センター	1
医療法人社団慈広会記念病院	2	佐鳴湖病院	1
静岡徳洲会病院	3	島田市立総合医療センター	1
国際医療福祉大学熱海病院	2	岡本石井病院	1
自衛隊富士病院	2	浜松南病院	1
富士市立中央病院	2		

Q3 2021年4月～2022年3月までの期間に産休、育休を取得した医師数、また復帰した医師数

◆産前産後休暇取得者数 50名（常勤女性医師の7.3%）



◆育児休暇取得者数

【男性医師】

12人

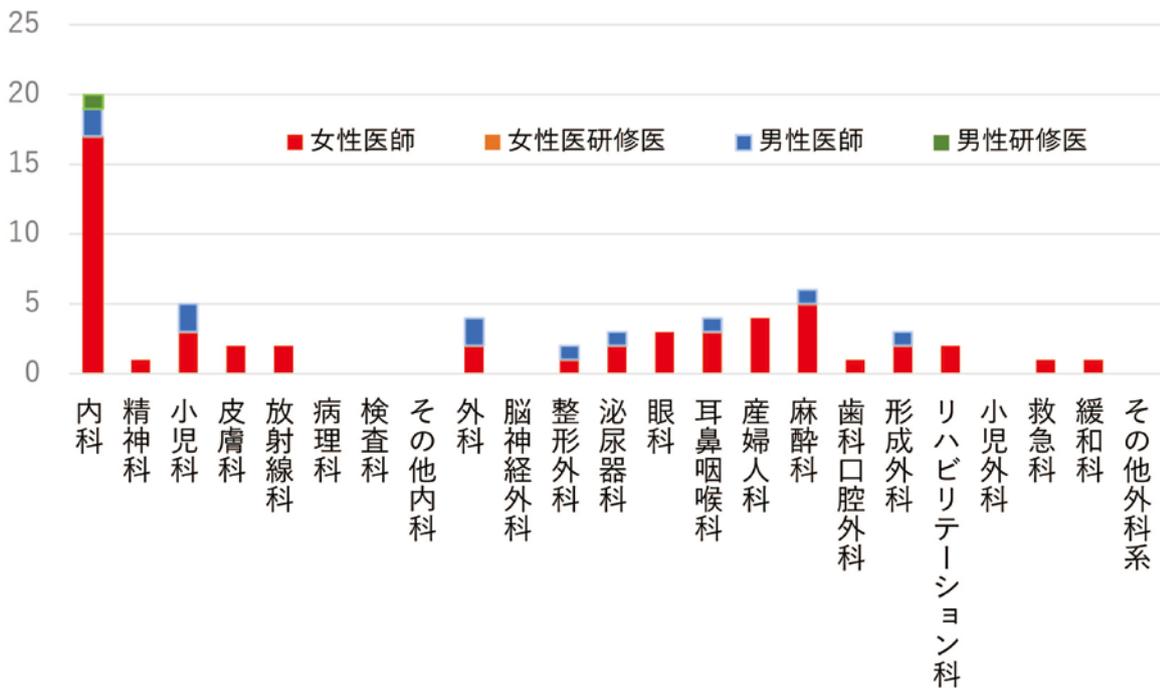
（うち1名初期研修医：昨年度男性取得者は8名）

【女性医師】

52人

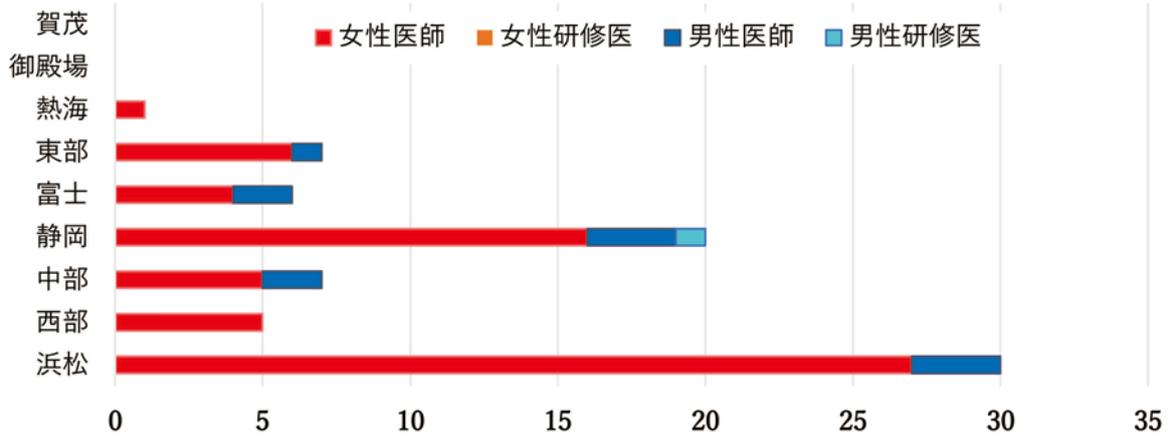
（うち0名初期研修医：昨年度女性取得者は63名）

診療科別育休取得者



* 医師数に比例して内科医師の育休取得者が多くなっています。男性医師の育休取得も多くの診療科から取得されているようです。医療機関によって取りやすい施設、取らない施設の偏りが見られました。

地域別育休取得者



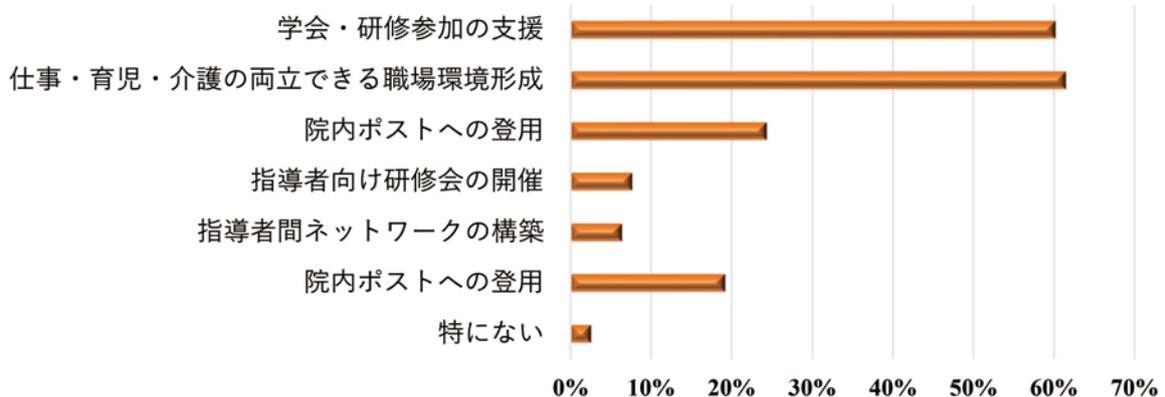
◆復職者数 () 表示は同年度の育休取得者数

区分	男性医師	女性医師	合計数
復職数	14(26)	24(59)	38

*昨年より男性医師の育休取得が増加し、県内各地域で取得されるようになってきています。

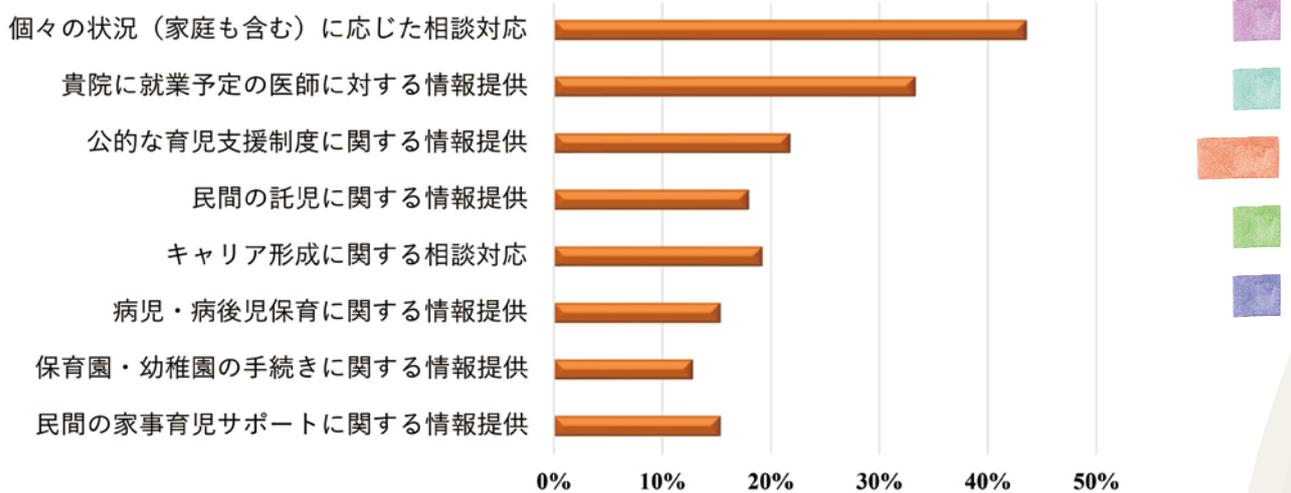
昨年に比較し女性と男性の復職率が同程度となっているのは男性の育休取得期間が長期となっている可能性も考えられます。

Q4 女性医師のキャリア維持、指導者や管理職として育成していくために貴院で取り組まれている事に✓を付けてください。



*半数以上の医療機関で研修支援、両立支援の取り組みがみられます。女性医師が現場で活躍していくと、いずれ指導者や管理者としての役割が期待されるようになります。研修医や部下への指導は学会の指導医研修は個々に対応されているかと思いますが、病院管理における管理者への育成についてはまだ一般的ではないようです。

Q5 ふじのくに女性医師支援センターに希望する支援に✓を付けてください。



*当センターで行われている支援についての質問では、全体的に回答が伸びませんでした。

これは対象となる女性医師が少ない、または在籍されていない医療機関では具体的にセンターでの活動が知られていないのではないかと推測されます。今後女性医師が増えていく可能性が高い現状、更に周知活動を行っていく必要があります。

令和4年度は3年度に引き続き静岡県内の医療機関に所属する女性医師の就業実態を調査することを目的に静岡県病院協会のご協力の元、県内医療機関に向けてアンケート調査を行いました。昨年度に比べ少なくなりましたが78施設(回答率45.6%)からご回答をいただきました。1年間に県外から入職した女性医師は119人(研修医を含まない)、地域別では東部に多い傾向が見られ、連携している大学の移動、県外から医師が集まる医療機関の影響がある為と考えられます。

産前産後休暇は実数こそ少なくなりましたが、常勤女性医師の7%が産休及び育児休暇を取得しており、昨年同様、産休取得者はほとんどが育休まで取得できている者と考えます。

男性育児休暇取得者は昨年度8名でしたが本年度は12名と増加し、また地域別にみても人数は少ないものの静岡市、浜松市だけでなく県内全域にわたっています。2022年10月から新たな男性の育児休暇に関わる制度が開始された影響から今後も増加すると考えられます。

取得期間についての詳細な結果はわかりませんが、働き方改革を見据えたワークシェア・ワークシフトなどの工夫により多くの男性医師が育児休暇を取得する流れになるならば、センターの支援活動も広げていく必要があると考えます。

医療機関における女性医師のキャリア支援については家庭との両立の支援、キャリア支援が6割程度なされていますが、上位管理者に向けてのサポートはまだ少ないようです。

また当センターに期待する支援についての回答数が少ないのはやはり周知不足が否めません。来年度はさらに県内医療機関に対して連携をしていただけるような活動を充実させる必要性を感じました。

アンケートにご協力いただきました医療機関の皆様、病院協会の皆様にはご協力に感謝申し上げます。

アンケート回答施設一覧

静岡県内 78 施設の医療機関に回答頂きました。ご協力頂きありがとうございました。

※施設名は回答時の表記で掲載しています。

◆加茂保健所

下田メディカルセンター	公益社団法人地域医療振興協会伊豆今井浜病院
-------------	-----------------------

◆熱海保健所

伊東市民病院	医療法人社団伊豆七海会熱海所記念病院
国際医療福祉大学熱海病院	

◆東部保健所

独立行政法人地域医療機能推進機構三島総合病院	一般財団法人芙蓉協会聖隷沼津病院
独立行政法人国立病院機構静岡医療センター	沼津西病院
静岡県立静岡がんセンター	医療法人社団形外会三島森田病院
沼津市立病院	医療法人社団志仁会三島中央病院
裾野赤十字病院	医療法人社団静岡健生会三島共立病院
伊豆赤十字病院	医療法人社団慈広会記念病院
J A 静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院	医療法人社団聡誠会池田病院
公益財団法人復康会沼津中央病院	農協共済中伊豆リハビリテーションセンター
公益財団法人復康会沼津リハビリテーション病院	順天堂大学医学部附属静岡病院

◆御殿場保健所

国立駿河療養所	医療法人社団青虎会フジ虎ノ門整形外科病院
自衛隊富士病院	

◆富士保健所

富士宮市立病院	一般財団法人恵愛会聖隷富士病院
共立蒲原総合病院	医療法人財団新六会大富士病院
富士市立中央病院	医療法人社団喜生会新富士病院
公益財団法人復康会鷹岡病院	医療法人社団秀峰会川村病院
一般財団法人富士心身リハビリテーション研究所附属病院	医療法人十全会聖明病院
一般財団法人富士脳障害研究所附属病院	

◆静岡保健所

独立行政法人国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター	JA 静岡厚生連静岡厚生病院
静岡県立こころの医療センター	医療法人社団清明会静岡リハビリテーション病院
静岡県立総合病院	溝口病院
静岡赤十字病院	静岡徳洲会病院
静岡済生会総合病院	医療法人清仁会日本平病院

◆中部保健所

島田市立総合医療センター	医療法人社団綾和会駿河西病院
焼津市立総合病院	医療法人社団平成会藤枝平成記念病院
藤枝市立総合病院	医療法人社団八洲会はいなん吉田病院
榛原総合病院	

◆西部保健所

磐田市立総合病院	菊川市立総合病院
掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター	市立湖西病院
袋井市立聖隷袋井市民病院	公立森町病院
市立御前崎総合病院	浜名病院

◆浜松保健所

独立行政法人労働者健康安全機構浜松労災病院	かば記念病院
浜松医科大学医学部附属病院	浜松北病院
独立行政法人国立病院機構天竜病院	医療法人社団種光会朝山病院
浜松医療センター	医療法人社団誠心会浜北さくら台病院
浜松市リハビリテーション病院	遠江病院
浜松市国民健康保険佐久間病院	医療法人弘遠会天竜すずかけ病院
引佐赤十字病院	社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院
佐鳴湖病院	社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院

2) 活動報告

①啓発活動

医学生・医師・管理者の先生方が情報共有を目的に静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会を開催しました。

◀ 学生・研修医・医師交流会 はまキャリア 2022 ▶

会 期	令和4年7月1日(金)
開催方法	オンライン
参加者	学生2名、医師4名

【概要】

7月1日「はまキャリア」こと「学生・医師交流会」を開催しました。

今年もオンラインでの開催となりましたが、臨床実習中の5年生と消化器内科、乳腺外科、眼科、産婦人科の医師が集まりました。「結婚や子育てと仕事の両立」「専門を決めるポイント」「食事はどうしてる？」など、学生の方からの質問を口火に話題が広がりましたが、特に本年は参加した医師の配偶者が医師以外の職業の方が多く、子育てや家庭生活の両立は夫婦の協力が大切、と皆で深く同意したのでした。最初は皆さん緊張した面持ちでしたが、話が進むにつれ和やかな雰囲気でも過ごすことができました。ご協力いただいた先生方、お昼の貴重な時間にありがとうございました。来年はぜひ対面で開催したいものです。

気軽に参加できる
オンライン開催!

仕事と家庭の両立は大変?!
診療科を選ぶポイントは?
専門医を取ってからどう働く?

自分のキャリアプランを
デザインしてみませんか?
先輩ドクターがお答えします!

日時 **7月1日(金)**
12:30~13:30

開催方法 ランチをしながらオンライン開催
※昼食は各自でご用意ください☆

対象 医学生・研修医・医師
お一人でも友達同士でもパートナーと一緒にでも
大歓迎★
男性医師も参加します!

申込 締切:6月29日(水)
申込先:右記の二次元コードから
申込みください。

【問合せ】dr-info@hama-med.ac.jp

主催:浜松医科大学女性医師支援センター・ふじのくに女性医師支援センター



◀ ロールモデル講演会 ▶

会 期	令和4年10月21日(金)
開催方法	ハイブリッド
参加者	オンライン 36名
	会場 19名

【概要】

今回も個性豊かな3名の先生に講演して頂き大変盛り上がりしました。

浜松医大小児科の藤澤先生は子育てとご自身の親の介護というダブルケアを経験し、子育てや仕事とはまた違った大変さや介護を乗り切るコツをお話し頂きました。このロールモデル講演会では初めて介護がテーマ。これからは女性だけでなく男性にも切実なテーマになると思います。大変分かりやすく参考になりました。

浜松医大心臓血管外科の大箸先生はご実家に頼りづらい状況の中、「まずは二人で何とかする」「お互いに知らない事を無くす」をモットーにご主人と協力して、子育てや家庭だけでなくお互いのキャリアも大切にしようと日々工夫されていました。

富士宮市立病院の森岡先生は奥様も同じ病院で常勤として勤務しており、ご夫婦共に多忙な状況ですの中、節目節目に家族全員で旅行やキャンプ等、お楽しみをすることでONとOFFを上手く切り替えているそうです。

共働きを続けるコツは・・・
「自分にしかできないことを日常生活に作らない」。そして何よりお子様の理解を得ていることも大きいとのことでした。

今回は県外からもたくさんの方にご参加いただきました。働き方改革を前に家庭との両立やキャリアのことなど他の方がどのようにやりくりしているか、皆さん興味のあるテーマだったと思います。アンケートでリクエストも沢山頂きましたので次回に繋げていきたいと思ひます。

講演頂いた先生方、参加された皆様、ありがとうございました。



◀ 学生講義 ▶

ライフイベントやキャリア形成について、学生のうちから考えられるよう講義の中でロールモデルの紹介や医師を取り巻く現状等を伝えています。今年度は3回講義を行いました。

日 程	令和4年5月6日(金)
対 象	医学生2年生 114名
講 師	谷口 千津子 「医学生のためのキャリア形成入門」
日 程	令和4年6月21日(火)
対 象	医学生6年生 116名
講 師	谷口 千津子 「ライフイベントをプラスに変える！～働く側・支える側 それぞれのメリット」
日 程	令和4年11月17日(木)
対 象	医学生4年生 108名
講 師	安田 日出夫(女性医師支援センター 副センター長) 「女性医師支援」の本質は何か 藤澤 泰子(女性医師支援センター 運営委員) 「女性医師支援～ダイバーシティの視点から」

【アンケートより】

- ・女性が医師になることで問題が起こると考えている医師が思いの外多く驚きました。たしかにゆるふわ女医といった働き方の医師が男女関係なく増えてしまえば、現場は大変だし回らなくなるのではと考えました。カップル間で考えの差が就活の時点で問題になるという話では意外と働き方の問題は学生にも身近なのだと感じました。
- ・女性は家を守るという固定観念を崩したほうが良いことをひしひしと感じた。しかし、自分の家庭では父が働き母は主婦として家にいた。日本においてはやはりこの考え方は根強く、深い文化だということも同時に感じた。女性は働かないというよりは働けないという感じであると感じた。
- ・女性医師が子育てというものを抱えながら働くことの難しさや、男性医師と女性医師の医師としての労働時間の違いなどを学ぶことができた。ディスカッションを通して男性と女性の仕事に対する意識の違い、将来に対する意識の違いなどを実感することができた。やはり周りの意見を聞いていても男性は仕事に対する意識が強く、女性は家庭に対する意識が強いのではないと感じた。もちろんどちらが正しいということはないと思うが、いずれにせよお互いに相手の考えを尊重し、対話を重ねていく必要があると思った。



②相談窓口の設置

出産・育児などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へ就業・キャリアに関する相談窓口を開設しています。

対応者	コーディネーター2名（専任医師1名、専従事務員1名）
開設時間	平日9時から17時まで

③センターの活用

センターでは畳スペース・ソファースペース・テーブルスペースを自由にご利用いただくことが出来ます。カーテンで仕切り体調不良時の休憩や搾乳として利用したり、一時的な保育スペースとして活用いただいております。大学に所属する医師だけでなく、これから復職を考えている方や他の病院に勤務されている方等、どなたでもご利用いただけます。



④マタニティ白衣・パンツの無料貸出し

ふじのくに女性医師支援センターと浜松医科大学女性医師支援センターの共同事業です。

産前休暇を取得するまで仕事のモチベーションを保ちながら、快適に業務に携わることが出来るようサポートしています。

利用者	大学
医師	1名

マタニティ白衣・パンツのご紹介

嬉しい工夫がいっぱいあります♡

マタニティ白衣の特色



規格（標準サイズとの比較）

サイズ	着丈	バスト	肩幅	袖丈
S	95	97	38	53
マタニティS	90	112	38	51
M	100	101	39	55
マタニティM	95	116	39	51

※標準サイズは浜松医科大学の白衣サイズを掲載しています。

マタニティパンツの特色

規格

サイズ	ウエスト	ヒップ	太もも	股下
S	78	90	29	70
M	86	100	31	72
L	94	112	34	74



2枚1セットでレンタルいたします。
詳しくはホームページをご覧ください！

マタニティ白衣・パンツ
ご案内ページ➡



広報活動・情報発信

①ホームページについて

静岡県内で活動する女性医師の就業や子育てに関する情報とふじのくに女性医師支援センターの取組を掲載するホームページを平成30年2月に開設しました。医師としてのキャリア形成や仕と家庭の両立を希望する女性医師が医療機関情報や地域の子育て支援情報をインターネット上で容易に収集できることで県内での就業復帰を後押しすることを目的としています。



ふじのくに女性医師支援センターホームページ
<https://www.fujinokuni-w.jp/>

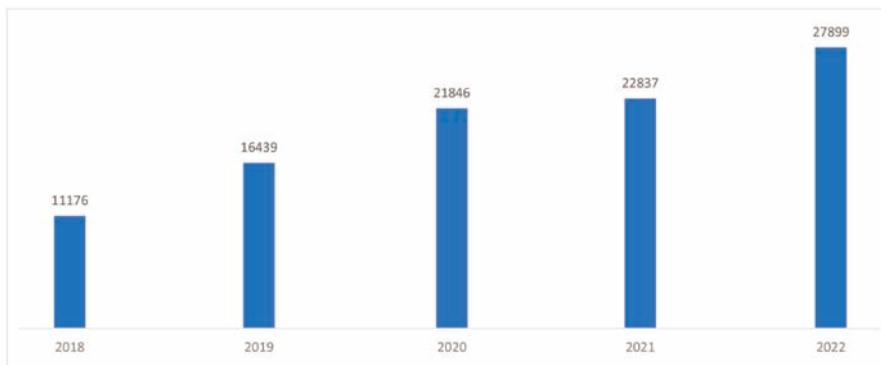


サイト分析結果

令和4年度月別



平成30年度から令和4年度年別



※アクセス数は Webalizer ソフトを使用し、30分以内の同一IPを除いた訪問者数をカウントしています。

令和4年度取り組み

◇ TOP ページリニューアルとスマホ版 TOP ページの導入

見たいコンテンツへ移動しやすくするため、メインコンテンツを上部に配置し、新着情報を見やすくしました。スマホ用ページを取り入れ、どの媒体からでも閲覧しやすくなりました。



◇ ロールモデル紹介ページのリニューアル

身近なロールモデルをテーマに働き方や性別にとらわれない色々な先生を紹介しています。これからの自分のキャリアを見つめ直すきっかけになれば嬉しいです。

みんなの復帰パターン

育児取得後の働き方
家族・仕事のやりくり等

ONとOFFどうしてる？

仕事・プライベート
それぞれの楽しみ方等

私のやりがい

仕事・プライベートで
自分が大切にしていること等

➡

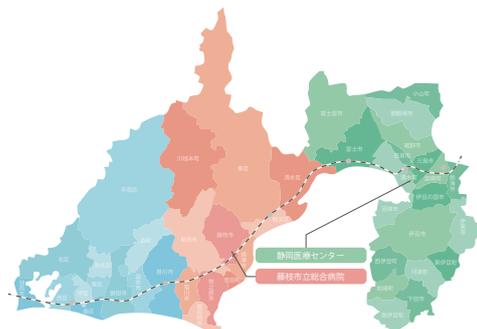
ロールモデル紹介

みんなの復帰パターン

No.	氏名	勤務先	キーワード						
			育児取得	パート	在宅勤務	副業	育児休業	在宅勤務	シフト勤務
1	山田 花子	某病院	○	○	○	○	○	○	○
2	佐藤 太郎	某病院	○	○	○	○	○	○	○
3	田中 美穂	某病院	○	○	○	○	○	○	○
4	鈴木 健一	某病院	○	○	○	○	○	○	○
5	高橋 由美	某病院	○	○	○	○	○	○	○

◇ 協力医療施設紹介コンテンツの導入

当センターと連携している医療施設を紹介します。医師だけでなく様々な立場の方が参考になるよう事務の方にも自院の魅力をお聞きしています。



◇ SNS での情報発信を強化

ホームページでご紹介しているコンテンツのご案内やイベント情報等を発信しています。

【Facebook】

登録名を「浜松医科大学女性医師支援センター」から「ふじのくに女性医師支援センター」に変更をしました。
昨年度フォロワー 100 人→現在 138 人



【Instagram】

2022年6月に開設しました。現在フォロワー 94 人



②パンフレット配布

広く周知をするため、パンフレットを作成し県内医療施設と浜松医科大学各診療科及び卒業式・入学式、各イベントにて配布しています。



③講演会・シンポジウム等の参加

令和4年11月23日

令和4年度 勤務医委員会・ワークライフバランス WG 合同委員会

- ・静岡県医師会 勤務医委員会の取組
- ・ふじのくに女性医師支援センターの取組
- ・【講演】「医師会活動における女性医師のキャリア形成」
岐阜県医師会 会長 伊在井 みどり先生

現地（静岡県医師会館）＋ Web 会議

令和4年11月27日

女性医師支援・ドクターバンク連携中部ブロック会議

議題「医師のキャリア支援と医師確保の取り組み」

現地開催（名古屋市）

令和4年12月9日

令和4年度 第5回全国ダイバーシティネットワークシンポジウム

【基調講演】「ダイバーシティと社会課題 ～全国ネットワークの役割を考える～」

中部大学総長補佐 特任教授 宮浦千里先生

【事例報告】「岡山大学における D&I の取り組みについて」

岡山大学 岡山大学病院ダイバーシティ推進センター長 片岡仁美先生

Web 会議

令和5年2月6日

令和4年度全国ダイバーシティネットワーク組織 東海・北陸ブロック会議

Web 会議

令和5年2月9日

久留米大学ダイバーシティシンポジウム

テーマ「選ばれる職場を目指して 男性医師の育児休業取得を応援しよう！」

【基調講演】「男性育児休業取得の推進と働き方の見直し」

国立大学法人長崎大学 理事 伊東昌子先生

現地（久留米大学）＋ Web 開催

アクセス・発行について



令和4年度ふじのくに女性医師支援センター活動報告書

発行 印刷日 3月22日

発行 3月29日

発行所 ふじのくに女性医師支援センター

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山1-20-1

浜松医科大学医学部附属病院女性医師支援センター内

電話/FAX 053-435-2380

E-mail dr-info@hama-med.ac.jp

URL <https://www.fujinokuni-w.jp/>

編集 センター長 山内克哉

コーディネーター（医師）谷口千津子

コーディネーター（事務）袴田菜穂子